水源林は生活の源

水源林保全流域協働事業の経過をお知らせします

本市をはじめ、東三河地域は、生活に必要な「水」の多くを一級河川の豊川から得ており、その貴重な水の源は豊川上流域の森林です。本紙4月15日号でお知らせしたとおり、今年度より㈶豊川水源基金を通じて、みなさんの水道料金の一部を活用した水源林（水源となる森林）保全のための取り組みを東三河の全市町村で一体となって開始しました。この新しい取り組みの現在の状況についてお知らせします。

問合先
企画課（☎51・2182）
上下水道局総務課（☎51・2703）

豊川上流（設楽町）

豊川の源となる上流域には、約9万ha（豊橋市の面積の約3.5倍）に及ぶ森林が広がっています。その森林の約70％が人工林です。また、平成元年には約270人いた林業従事者も、現在は約150人と年々減少しています。このような状況から、手入れの行きとどかない人工林が多くなっています。荒廃した森林は、水を蓄える力（保水力）が低いため、大雨のときに水をため河川の増水を防ぐ能力が弱くなり、降った雨がすぐに河川へ流れ込むことになります。これでは水資源を安定して確保できなくなってしまいます。そのため、上流域の森林を整備・保全することが大切なのです。

そこで今年度から、水道料金のうち1㎥あたり1円を使って水源となる森林の保全事業を始めました。4人家族の場合、年間約300円が豊川上流の森づくりに使われます。

現在行っている事業を紹介します

①人を育てます（人材育成事業）

森林が荒廃した原因のひとつに、林業従事者の減少が挙げられます。実際に豊川上流域に広範に繁茂する人工林（主にスギ・ヒノキ）を手入れするには、多くの時間と労力がかかります。これらの人工林を手入れする林業の担い手を今後5年間かけて育成する試みです。現在、豊根村と新城市で人材育成が進んでいます。（左ページ参照）

水源を確保するために

整備された森林には、降った雨を地中に蓄え、少しずつ川に注ぐ機能をはじめ多くの機能があります。私たちの生活を支える水は上流の森林に育まれ、また水を蓄えることで洪水を緩和していることから、森林は「緑のダム」とも呼ばれています。

しかし、今年のように渇水になったり、昨年のように洪水が発生したりと、渇水と洪水を繰り返すようになっており、私たちの生活に必要な水を安定的に確保するためには水源林の整備・保全だけでなく、河川流量を調節できるダムが必要となります。現在、設楽町ではダム建設に向けた調査が進んでいます。私たちも一人ひとりが日頃から節水に努め、限りある豊川の水を大切にすることが必要です。渇水時にだけ節水をするのではなく、毎日の暮らしのなかで、水を大切にしましょう。

水は生活のあらゆる場面で使われています

農業用水の農作物への利用（スプリンクラーによる散水）

研修を受けている方に話を伺いました

木に関わる仕事がしたくて、この仕事を選びました

堀裕樹さん
（豊根村森林組合）

実家に畑があるので、手伝っているうちに農業や林業に関心を持つようになりました。また、チェーンソーアートにも興味があり、木に関わる仕事がしたくて、この仕事を選びました。

研修では、森林整備に必要な「下刈り」と「伐採」の指導を受けています。「下刈り」は田口高校（設楽町）の林業科でも学んだのですが、実習と仕事では違うことがたくさんあります。例えば、日々の仕事として続けるには翌日以降のことも考えて作業をする必要があるので、その段取りを考えたり、実習ではやったことのない刈り方を教わったりするので、実践に即した勉強になります。

これからの林業には建築用材以外の木材の活用方法を考えていくことが必要だと思います。今後は、木材の加工技術を学んだり、木材の新しい活用方法を考えたりしたいですね。

②森林づくりに助成をします

（森林づくり事業）

東三河上流域の水源林を整備、保全する目的をもったNPO等の団体の事業に、一定の助成を行い、森林を保全していこうという取り組みです。今年度は、「NPO法人穂の国森づくりの会」の森林整備作業体験事業が認定され、下草刈りや間伐作業体験が実施されています。このようなNPO等の取り組みを引き続き支援していく予定です。

作業のようす

③水源林の大切さをお知らせします

（啓発事業）

東三河地域で育つ子どもたちに水源林や水の大切さを知ってもらうためのDVDを製作し、3月下旬頃に小・中学校などへ配布します。

④森林の間伐を進めます

（間伐推進事業）

水源林の良好な管理をするため、木材を切り出す作業と、切り出した木材を搬出する作業に助成をしています。